

「税」で恩返し

富山県立滑川高等学校二年 佐藤 ももの

私は給食が大好きだった。栄養バランスが考えられていて、毎日の学校の楽しみであった。小学校低学年の頃は、よくクラスで一番目に給食を食べ終わっていた。あの頃の美味しかった給食も、学校までの通学路も、さらには、小学生の頃、放課後に友達とよく遊んだ公園も、「税」が、私の知らないうちに、楽しい生活を守ってくれていたのだ。高校一年生の夏、私は熱中症で病院に救急搬送された。救急車を呼ぶ前に、私は少し抵抗があった。なぜなら、私の家は経済的に厳しく、救急車を呼ぶことで、大金を支払わなければいけないのではないかと心配したからだ。しかし、体調がほとんど良くなった頃、母に、救急車を呼んでしまったことを謝ると、

「大丈夫。救急車はお金かからないよ。税金で賄われているから。」

と言った。これを聞いて私は、とても泣きそうになった。そして一気に緊張がほどけた。「税」を払うことを嫌っていた私は、その時初めて、「税」のありがたみを知った。経済的に厳しかった家を「税」が守ってくれた。私の命も、「税」が守ってくれた。「税」には本当に感謝している。「税」のおかげで今の私がいると言っても過言ではない。もしその当時、「税」がなかったら、私はどうなっていたのか。経済的理由で、救急車を呼ぶことを拒み、病院に行くのが遅れていれば、私の命は助かっていなかったかもしれない。

私はこの経験を通して、「税」がない社会だとどうなってしまうのか、気になった。そしてスマートフォンで調べると、とても驚くべき悲惨な情報が、たくさん分かった。ある記事によると、「税」がなくなることで、犯罪を取り締まる警察官がいなくなり、トラブルの多い世の中になったり、安心して学べる教育環境がなくなったりと、毎日平和な生活を送れなくなってしまうことが分かった。

「税」がない社会は想像できない。私たちは、「税」によって、楽しい生活を送ることを保障されている。世の中には、「税」を納めることを嫌う人もいるかもしれないが、「税」を納めなければ、社会はますます悪い方向へと、向かって行ってしまう。平和な社会を守るために、私は身近な「消費税」を利用して、社会の平和と安全を守っていきたい。私と同じように怖い思いをする人が、一人でも減ることを祈って、進んで「税」を納めたい。「税」は決して悪いものではない。私たちをしっかりと支えてくれる存在なのだ。私を守ってくれた「税」には、私の知っている人から知らない人まで、いろいろな人のお金が含まれている。私は、そのような人たちに「税」を通して、恩返しをしたい。